

全学モジュール科目案内

| | | | |
|---------------|---|-----------|------------|
| カテゴリー | 多様性と共生 | モジュール科目区分 | 全学モジュールⅡ科目 |
| テーマ名 | 16-a1 現代経済と企業活動a | | |
| 対象学部 | 多文化社会学部・教育学部・薬学部・水産学部 | | |
| テーマ責任者 | 林 徹 | 責任部局 | 経済学部 |
| 趣 旨 | 現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立している。こうした経済の仕組みを、その原理や制度、歴史的変遷、国や地域間の比較など幅広い観点から考察することにより、複眼的で幅広い視点を獲得することを目的とする。本モジュールの履修により、経済学の体系に沿って統一的に学ぶことが可能となる。 | | |
| 学生の皆さんへのメッセージ | 前提知識はとくに問わないが、経済や企業について広い関心のある者、先人や他者から謙虚に学び、学習を進めていくことに関心のある者の受講を希望する。また、新聞や日々のニュースに耳を傾けることが、社会現象の観察眼・批判的思考力を向上させる機会となることを念頭に受講しなければならない。 | | |

| 科 目 名 | 担当者名 | 概 要 | キーワード |
|-----------|-------------|---|------------------------------------|
| 国際社会と日本経済 | ウマリ・セリア・ロペス | Amid the globalization of the world economy, we will look at the growth of the Asian economy and business and study its implications on the Japanese economy. | Globalization, Economics, Business |
| 企業行動と戦略 | 林 徹 | ボードゲーム MONOPOLY (Windows 英語版)を用いる。ルールの完全理解と、資産(主に不動産と公共事業)の運用(売買・交換・賃貸)を通じて、淑女・紳士的な交渉術と大局観を培う。 | ストックとフロー、抵当権、銀行係、刑事施設(Jail) |
| 社会制度と経済活動 | 松木 佑介 | 市場とこれを取り巻く組織や制度は経済活動を支える土台である。効率的な経済活動を実現する、また消費者にとっても望ましい社会制度の在り方について、国際比較などを通じて多面的に考察する。 | 政府公共部門、市場の失敗、規制緩和 |

| 全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応 | 汎用的技能・態度 | | | | | | | | | 知識・理解 | | | ※授業編成の視点 | | | |
|--------------------------|----------|--------|-------|--------|-------|-----|--------|------|-----|-------|-------|--------|--------------|--------------|--------------|----------------|
| | 学ぶ力 | | 考える力 | 関わる力 | 表現する力 | | (基盤力) | | | | | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ | ⑫ | A | B | C | D |
| | 自主的探究 | 自己成長志向 | 批判的思考 | 相互啓発志向 | 自己表現 | 行動力 | 社会貢献意欲 | 日本語力 | 英語力 | 基盤的知識 | 環境の意義 | 多様性の意義 | 人文科学の内容を取り扱う | 社会科学の内容を取り扱う | 現代的な話題を取り入れる | アクティブ・ラーニングの活用 |
| 国際社会と日本経済 | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | | ○ | ◎ | ○ |
| 企業行動と戦略 | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ◎ | | ○ | | ◎ | ○ | ◎ |
| 社会制度と経済活動 | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | | ◎ | ○ | ○ | | ◎ | ◎ | ○ |
| ◎(特に重視)の数 | 1 | 0 | 3 | 2 | 0 | 1 | 3 | 1 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 1 |
| ○(重視)の数 | 2 | 3 | 0 | 1 | 3 | 2 | 0 | 2 | 1 | 0 | 2 | 3 | 0 | 1 | 1 | 2 |

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

| | | | |
|---------------|--|-----------|------------|
| カテゴリー | 多様性と共生 | モジュール科目区分 | 全学モジュールⅡ科目 |
| テーマ名 | 16-a2 現代経済と企業活動b | | |
| 対象学部 | 多文化社会学部・教育学部・薬学部・水産学部 | | |
| テーマ責任者 | 徐 陽 | 責任部局 | 経済学部 |
| 趣 旨 | 現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立している。こうした経済の仕組みを、その原理や制度、歴史的変遷、国や地域間の比較など幅広い観点から考察することにより、複眼的で幅広い視点を獲得することを目的とする。本モジュールの履修により、経済学の体系に沿って点が線に、線が面に概観的に学ぶことが可能となる。 | | |
| 学生の皆さんへのメッセージ | 前提知識はとくに問わないが、経済や企業について広い関心のある者、先人や他者から謙虚に学び、学習を進めていくことに関心のある者の受講を希望する。また、新聞や日々のニュースに耳を傾けることが、社会現象の観察眼・批判的思考力を向上させる機会となることを念頭に受講しなければならない。 | | |

| 科 目 名 | 担当者名 | 概 要 | キーワード |
|--------------|--------|---|----------------------|
| 国際社会と日本経済 | 成田 真樹子 | 経済活動は国境を超え、グローバル化が進展している。貿易や資本や労働の移動、地域統合などの問題を通じ、グローバル化による効果と課題について理解する。 | 貿易 投資 グローバル化 |
| 企業行動とマーケティング | 高橋 啓 | 企業の活動をマーケティングを中心に、最新のトピックをふんだんに交え紹介する。 | モノ、カネ、情報 |
| 経営情報と会計情報 | 徐 陽 | 企業はさまざまな環境の変化に対応して意思決定を行い、その意思決定の基礎となる会計情報の作成、すなわち企業の取引を捉えて記録・計算・報告のシステムについて考察する。 | 企業取引 会計情報 外部報告 |

| 全学モジュールの 目標および授業編 成の視点との対応 | 汎用的技能・態度 | | | | | | | | | 知識・理解 | | | ※授業編成の視点 | | | |
|----------------------------------|----------|--------|-------|--------|-------|-----|--------|------|-----|-------|-------|--------|--------------|--------------|--------------|----------------|
| | 学ぶ力 | | 考える力 | 関わる力 | 表現する力 | | (基盤力) | | | | | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ | ⑫ | A | B | C | D |
| | 自主的探究 | 自己成長志向 | 批判的思考 | 相互啓発志向 | 自己表現 | 行動力 | 社会貢献意欲 | 日本語力 | 英語力 | 基盤的知識 | 環境の意義 | 多様性の意義 | 人文科学の内容を取り扱う | 社会科学の内容を取り扱う | 現代的な話題を取り入れる | アクティブ・ラーニングの活用 |
| 国際社会と日本経済 | ◎ | | ◎ | ○ | ○ | | ○ | | | ◎ | | | | ◎ | ○ | ○ |
| 企業行動とマーケティング | ◎ | | ○ | | | | ○ | | | ◎ | | | | ◎ | ◎ | |
| 経営情報と会計情報 | ◎ | ◎ | | ◎ | ○ | ◎ | ○ | | | ◎ | | | | ○ | ○ | ◎ |
| ◎(特に重視)の数 | 3 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 |
| ○(重視)の数 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 |

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

| | | | |
|---------------|--|-----------|------------|
| カテゴリー | 多様性と共生 | モジュール科目区分 | 全学モジュールⅡ科目 |
| テーマ名 | 16-a3 環境マネジメント | | |
| 対象学部 | 多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部 | | |
| テーマ責任者 | 山下 敬彦 | 責任部局 | 産学官連携戦略本部 |
| 趣旨 | 21世紀市民のコモンセンスとして環境配慮への理解と環境保全に関する知識を修得し、人類の持続可能な発展(sustainable development, SD)を実現するための基本的な姿勢を身につけることを目的としている。そのため、日本のエネルギー事情、環境汚染物質マネジメント、エネルギー・マネジメント等を理解し、研究・開発や企業・法人等における管理業務にも役立つものとする。あわせて、長崎大学におけるエネルギー管理、廃液処理などの実際に触れさせることにより、化学物質の取扱い、実験廃液・廃棄物の処理、エネルギー管理などに関心をもち、コミュニティの一員としての自覚を促し、長崎大学のよりよい環境を実現する一助とする。 | | |
| 学生の皆さんへのメッセージ | 私達21世紀市民が目指すのは、人類の持続可能な発展(sustainable development, SD)です。そのためには、環境保全の実際を理解するとともに、環境配慮への理解を深める必要があります。本モジュールは、そのような観点から環境保全に関する学習を行います。 | | |

| 科目名 | 担当者名 | 概要 | キーワード |
|---------------|---------------|---|---------------------|
| エネルギー・マネジメント | 山下 敬彦 藤本 登 | エネルギー・マネジメントの実際を理解するとともに、エネルギーに関する長崎大学の現状と課題について理解を深め、長崎大学コミュニティの一員としてとるべき行動について理解を深める。 | エネルギー・マネジメント、とるべき行動 |
| 有害化学物質のマネジメント | 久保 隆 真木 俊英 | 有害化学物質物質のマネジメントについて理解するとともに、長崎大学における廃液処理の実際を見学し、長崎大学コミュニティの一員としてとるべき行動について理解を深める。 | 有害化学物質のマネジメント、廃液処理 |
| 廃棄物のマネジメント | 竹下 哲史 | 廃棄物の処理に関する法律等を理解するとともに、廃棄物の分別を体験し、廃棄物のマネジメントに関する知識と理解を深める。 | 廃棄物の処理、廃棄物のマネジメント |

| 全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応 | 汎用的技能・態度 | | | | | | | | | 知識・理解 | | | ※授業編成の視点 | | | |
|--------------------------|----------|--------|-------|--------|-------|-----|--------|------|-----|-------|-------|--------|--------------|--------------|--------------|----------------|
| | 学ぶ力 | | 考える力 | 関わる力 | 表現する力 | | (基盤力) | | | ⑩ | ⑪ | ⑫ | A | B | C | D |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | | | | | | | |
| | 自主的探究 | 自己成長志向 | 批判的思考 | 相互啓発志向 | 自己表現 | 行動力 | 社会貢献意欲 | 日本語力 | 英語力 | 基盤的知識 | 環境の意義 | 多様性の意義 | 人文科学の内容を取り扱う | 社会科学の内容を取り扱う | 現代的な話題を取り入れる | アクティブ・ラーニングの活用 |
| エネルギー・マネジメント | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ◎ | ○ | | ◎ | ○ | ◎ |
| 有害化学物質のマネジメント | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ◎ | ○ | | ◎ | ○ | ◎ |
| 廃棄物のマネジメント | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ◎ | ○ | | ◎ | ○ | ◎ |
| ◎(特に重視)の数 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 3 | 0 | 3 |
| ○(重視)の数 | 0 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 0 | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 | 3 | 0 |

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

| | | | |
|---------------|--|-----------|------------|
| カテゴリー | 多様性と共生 | モジュール科目区分 | 全学モジュールⅡ科目 |
| テーマ名 | 16-a4 社会と文化の多様性 | | |
| 対象学部 | 教育学部・経済学部・薬学部・水産学部 | | |
| テーマ責任者 | 池田 幸恵 | 責任部局 | 多文化社会学部 |
| 趣旨 | <p>グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に世界を知る必要に迫られている。そして、このことは必然的に日本(と日本人)を知ることをわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何かかという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。</p> <p>本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパといった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、文化、社会、歴史、宗教、言語などの視点から世界と日本を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にともなっている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。</p> | | |
| 学生の皆さんへのメッセージ | <p>グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くこととなります。「社会と文化の多様性」を学ぶことは、他者を理解し、自己を相対化することに繋がる知的な営みです。そうした多文化状況で生き抜いていく能力を身につける上で必要なプロセスだと思えます。</p> | | |

| 科目名 | 担当者名 | 概要 | キーワード |
|---------------------|-------|---|----------------------------|
| 世界の中のヨーロッパ、アジア、アフリカ | 正本 忍 | ヨーロッパの文化と文明の影響力は今なお大きい。本講義では第一に、ヨーロッパ文化の基層について基礎的な知識を得る。第二に、ヨーロッパ文明が世界にもたらした影響を環境面において検討する。 | ヨーロッパ文化、文明環境、歴史 |
| 宗教からみる日本 | 滝澤 克彦 | 日本の宗教文化は、その風土を反映し実に多様で混合性に富む。この授業では、個別の組織宗教だけではなく民間信仰やスピリチュアリティに至るまで様々な事例をとりあげ、「日本文化」と呼ばれるものの特質に迫る。 | 教文化、風土、組織宗教、民間信仰、スピリチュアリティ |
| 日本のことばと文芸 | 池田 幸恵 | さまざまな時代の言語資料を取り上げ、そこに見られる日本語の諸問題を考察することを通して、日本語・日本文化に対する理解を深める。 | 日本語 日本文学 |

| 全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応 | 汎用的技能・態度 | | | | | | | | | 知識・理解 | | | ※授業編成の視点 | | | |
|--------------------------|----------|--------|-------|--------|-------|-----|--------|------|-----|-------|-------|--------|--------------|--------------|--------------|---------------|
| | 学ぶ力 | | 考える力 | 関わる力 | 表現する力 | | (基盤力) | | | | | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ | ⑫ | A | B | C | D |
| | 自主的探究 | 自己成長志向 | 批判的思考 | 相互啓発志向 | 自己表現 | 行動力 | 社会貢献意欲 | 日本語力 | 英語力 | 基盤的知識 | 環境の意義 | 多様性の意義 | 人文科学の内容を取り扱う | 社会科学の内容を取り扱う | 現代的な話題を取り入れる | アクティブラーニングの活用 |
| 世界の中のヨーロッパ、アジア、アフリカ | ○ | | ◎ | | ○ | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ○ |
| 宗教から見た日本 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ○ |
| 日本のことばと文芸 | ◎ | | ○ | | ◎ | | | ◎ | | ◎ | | ○ | | ◎ | ◎ | ○ |
| ◎(特に重視)の数 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 2 | 2 | 0 | 2 | 3 | 0 |
| ○(重視)の数 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 | 1 | 0 | 3 |

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

| | | | |
|---------------|---|-----------|------------|
| カテゴリー | 多様性と共生 | モジュール科目区分 | 全学モジュールⅡ科目 |
| テーマ名 | 16-a5 文化の交流と共生 | | |
| 対象学部 | 教育学部・経済学部・薬学部・水産学部 | | |
| テーマ責任者 | 王 維 | 責任部局 | 多文化社会学部 |
| 趣 旨 | <p>グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に「世界を知る」必要に迫られている。そして、このことは必然的に「日本(と日本人)を知る」ことをわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。</p> <p>本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、世界といった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、文化、社会、歴史、宗教、芸術、言語、交流などの視点から世界と日本を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にともなって生じている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。</p> | | |
| 学生の皆さんへのメッセージ | <p>グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くこととなります。「世界を知り、日本を知る」ことは「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みであり、またそうした多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力でもあります。本モジュールを受講することで是非そのような力を身につけて下さい。</p> | | |

| 科 目 名 | 担当者名 | 概 要 | キーワード |
|----------------|-------|--|---|
| 世界と日本の文化交流 | 鈴木 英明 | この授業では、文化の交流を通して、日本を世界の中に位置づけてみたいと思います。具体的には、文化がどのような背景で運ばれ、どのようにして異なる文化と交わるのか、そして、それが何をもたらすのかという点について、特に歴史に題材を求めて考えます。この授業で焦点を当てる日本と世界というのは、ひとつの事例です。文化の交流は世界の至る場所で縦横に行われてきたし、現在も行われています。過去と現在とを切り離すのではなく、また、日本と世界のそのほかの場所を切り離すのではないもの見方を養いたしたいと思います。 | 世界史 異文化接触 交易 |
| 芸術で見る世界と日本 | 王 維 | 地球上暮らすあらゆる民族は、異なる自然環境、言語や宗教、或いは歴史や社会などの環境に対応し、周辺の民族と交流しながら、その社会でのアイデンティティを支えられた固有の祭礼、芸能や音楽をもってきた。多彩な祭礼、芸能や音楽を通して様々な世界を見る視点を学ぶ。 | 異文化交流、祭礼、芸能、音楽 アイデンティティ |
| アジアにおける人の移動と日本 | 南 誠 | 人の移動が活発に行われる今日のグローバル社会を生きる誰もが、人の移動によって生じる諸問題に直面する。この授業ではアジアという地域に焦点を定めて、人の移動にかかわる諸現象(移動の歴史、移動をもたらす諸要因や、人の移動による文化交流と新たな社会空間の生成など)を講義することで、アジアと日本の多文化状況や、異なる言語と文化を持つ人々との共生と協働について理解を深めます。 | 移民・難民 エスニシティ 社会的包摂と排除 文化交流、多文化共生 |

| 全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応 | 汎用的技能・態度 | | | | | | | | | 知識・理解 | | | ※授業編成の視点 | | | |
|--------------------------|----------|--------|-------|--------|-------|-----|--------|------|-----|-------|-------|--------|--------------|--------------|--------------|----------------|
| | 学ぶ力 | | 考える力 | 関わる力 | 表現する力 | | (基盤力) | | | | | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ | ⑫ | A | B | C | D |
| | 自主的探究 | 自己成長志向 | 批判的思考 | 相互啓発志向 | 自己表現 | 行動力 | 社会貢献意欲 | 日本語力 | 英語力 | 基盤的知識 | 環境の意義 | 多様性の意義 | 人文科学の内容を取り扱う | 社会科学の内容を取り扱う | 現代的な話題を取り入れる | アクティブ・ラーニングの活用 |
| 世界と日本の文化交流 | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 芸術で見る世界と日本 | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ○ |
| アジアにおける人の移動と日本 | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ◎ | | | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ○ |
| ◎(特に重視)の数 | 2 | 1 | 2 | 2 | 0 | 0 | 3 | 1 | 0 | 2 | 0 | 3 | 2 | 1 | 2 | 0 |
| ○(重視)の数 | 1 | 2 | 1 | 1 | 3 | 3 | 0 | 1 | 2 | 1 | 3 | 0 | 1 | 2 | 1 | 3 |

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目